

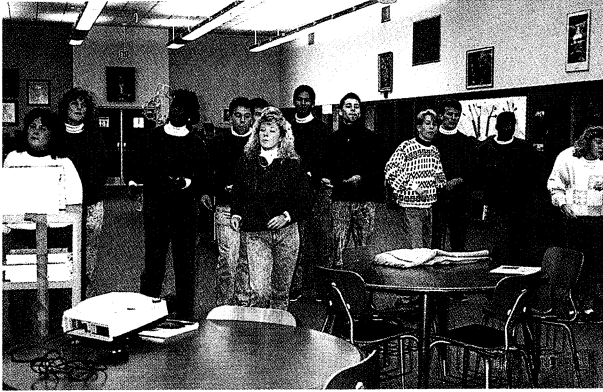
多人種・多民族国家の教育

—アメリカ合衆国—

さまざまな資料からアメリカは、まさに多
人種多民族国家であることがわかる。と同時
に多くの問題をかかえているといわれている。
教育の分野でも「国語」教育に力を入れている
事実は想像を越えるものがあった。「差別」
は解消したといっても現実にはなくなってい
ない。人種や民族、皮膚の色、宗教などによ
る差別を解消しようとしているアメリカ社会
の実態について自分の目で確かめる機会を得
たことに感謝している。

一人一人の個性・能力の尊重

視察校は八校と教育行政機関である。その



私たちを歓迎する合唱クラブの生徒たち
(ホープウエル高校)

中で特に次のような点が印象に残り、深く考
えさせられた。

一、教師が児童生徒の個性・能力を科学的合
理的な方法で把握することに努力し、児童
生徒のもっている特性を発達段階に応じて
最大限に伸ばすことに全力を傾けているこ
と。

二、その個性・能力を学校教育全体で十分発
揮させるため、諸条件の整備充実により力を入
れていること。中でも、

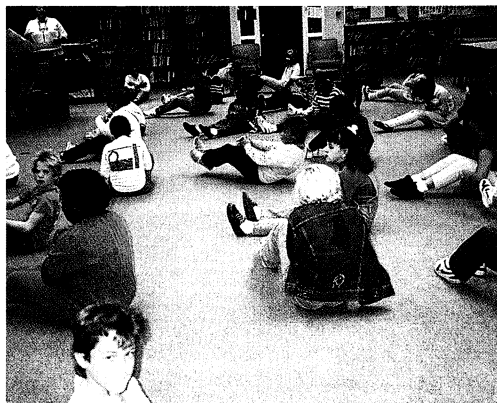
- ① 施設設備が充実している。
- ② 基礎学力の向上、特に「国語」・「算数」
の学力向上とコンピュータ導入による学
習の個別化、効率化に努力している。
- ③ スタッフ陣の質・量の充実により努力して
いる。
- ④ カウンセラーの役割強化を図っている。
- ⑤ とくに高校・成人教育分野では、卒業
後の社会全体の受け入れ体制がかなり満
足できる状態で整っていること。

三、宗教が学校教育の重要なバックボーンと
なっている。

選択コースでの学習

進路指導でも中学の高学年から高校・成人
教育の中で自己の能力や適性を発見させ、そ
の能力を十分発揮させることを目的としたさ
まざまな選択コースが設けられている。それ
ぞれのエキスパートを指導スタッフとして迎
え入れている事業を視察することができ、感
心するとともに考えさせられることも多かつ
た。つまり現在のアメリカが抱えている大き
な問題である中退者の増大、少数民族の教育
と就職問題、若年層の失業などの諸問題に対
する対応策の一つとして実施されているのだ

ろうが、これが、いわゆる教育における差別
的な職業のコース分けを合理化することにな
りはしないかという疑問を抱いたのである。
しかし一人一人の個性を尊重し、個性・能
力を的確に把握することに努力し、その上で
自己実現を目指して選択コースの学習に取り
組んでいる生徒と教師の真剣な学習姿勢には
学ぶべきことも多かった。



小学3・4年生の体育の授業風景
(パトリックコーブランド小学校)

教育改革と新たな課題

アメリカ合衆国はかつてのスポーツニク
ショック以来さまざまな教育改革に取り組ん
でいるといわれている、確かに施設設備やス
タッフの質・量等においては見るべきものが
多かったが、個々の授業の質や効率化という
点からはかなり問題があるのではないだろう
かと考えさせられたのも事実であった。

昭和六十三年度教員海外派遣(短期)福島県第七十一団
福島市立立子山中学校 教頭 森 和彦